

サロン名

ボランティア体験サロン

さいたま市

キャッチ
フレーズ

「ボランティアをやってみたい!」「自分でも何かできることはないかな?」そんなお声を聞いて始まった、ボランティア体験サロン

サロンの概要

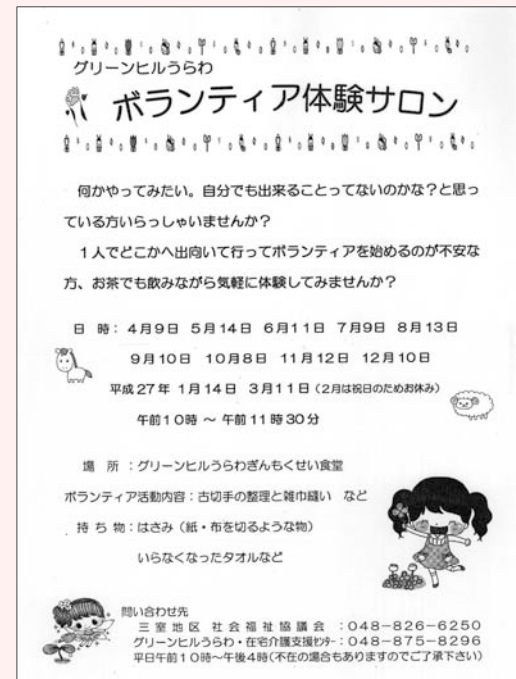
サロンの種類	世代間（地域住民）
発足年月	平成25年6月
開催頻度	月1回
開催時間	10時～11時30分
会場	グリーンヒルうらわ ケアハウスぎんもくせい食堂
参加費	なし
問合せ	さいたま市社会福祉協議会 TEL:048-834-3133

●中心になっている人（実施主体）

三室地区社会福祉協議会
グリーンヒルうらわ在宅介護支援センター

●関わっている人（協力者）

さくら草特別支援学校
三室地区自治会
三室地区民生委員児童委員協議会
児童自立支援施設ホザナ園



活動のきっかけ

三室地区社会福祉協議会では、平成20年よりふれあいサロンの充実に力を入れてきており、地域内で9ヶ所、年80回程のサロン活動を自治会の協力の下実施しています。その中で、「ボランティアをやってみよう」「自分でも何かできることはないかな」という声が上がっていました。そんな折、「まだまだ元気な地域の高齢者に生きがいを見つけてもらいたい」と在宅介護支援センターの職員より相談を頂いたことをきっかけに、地区社会福祉協議会として何が出来るかを検討しました。その結果、地域の方が一緒に時間を過ごせる場（サロン機能）と自己有用感をえられる場（ボランティア活動）を併せた活動ができないかと検討し、「ボランティア体験サロン」を立ち上げるに至りました。当初は高齢者のためのボランティア体験として企画を始めましたが、現在は、誰でも参加できる場としてボランティア活動や地域福祉に触れる機会となっています。

活動内容と活動のポイント

自治会の協力により、地区内全ての掲示板に「ボランティア体験サロン」のポスターを掲示しています。先日は、このポスターを見て40代の主婦が参加してくれました。「強制感がなく自由に参加できる感じがいい」そうです。今は、毎回約20名が参加し、古切手の整理をしたり、地区内にある特別支援学校に寄贈する雑巾を縫ったりしています。手を動かしながらおしゃべりをする他、活動後はみんなでお茶を飲んで談笑する時間があります。あえてボランティアグループにはせず、開催日はいつでも誰でも気軽に参加できるという点を重視し、サロンという形を取っています。雑巾の寄贈の際は、特別支援学校の校長先生やPTAなどがサロンを訪れ、ミニ贈呈式を行いました。これを機会に「人に喜ばれる」という経験ができたことが活動の意欲に繋がりました。その後も特別支援学校と交流が続き、学校で行われるふれあいコンサートへの参加やベニバナ染めの授業の見学なども活動に組み込まれました。今年は、特別支援学校の生徒が染めた布をコースター等に加工するお手伝いを始めます。加工したものは学校の文化祭のバザーで販売される予定です。その他、地区内の児童自立支援施設にも雑巾や足ふきマットを贈り、子どもたちからお礼の絵が贈られるなど、地域の福祉施設との交流が始まっています。

活動の効果

- ・サロンでは「参加者」ではなく「ボランティアさん」という呼び方をしており、「福祉の対象者」という印象が薄いので、プライドが高くサロンは合わないというお年寄りにも「ちょっとボランティアをお願いしたい」というように相手を立てて誘うことができます。
- ・初めて参加する方でも、その場でやるべきことがあるので参加しやすく、切手の絵を見比べて盛り上がるなど、共通の作業を通じて言葉を交わしやすいということがメリットです。
- ・参加対象を高齢者に限定しないことで、若い主婦層の参加もあり、地域の福祉活動に参加するきっかけとなっています。
- ・贈呈式や特別支援学校への訪問など、「相手に喜ばれる」「自分の活動の先に相手が見える」という経験があることで、参加者の意識が高まり、やりがいにつながっています。
- ・普段の生活では、なかなか馴染みのない特別支援学校ですが、このサロンでの交流を通じて身近に感じることができ、障害児や特別支援学校への理解が促されています。

課題と展望

課題

- ・男性の参加が少ないことが課題です。男性が参加しやすい活動内容を用意するなど、検討しています。

展望

- ・生きがいを見つけるためボランティア活動のきっかけになれば、との思いで始めた取組みなので、サロン内でのボランティアにとどまらず、様々な活動のきっかけを作っていきたいと考えています。例えば、地域内の福祉活動や福祉施設でのボランティア体験のツアーを企画するなど、サロンから発して「外に出る」活動へつなげていきたいと思っています。
- ・8月のサロンには夏休み中の子どもたちにも参加してもらいたいと考え、地区内の小学校、中学校に案内をします。世代間交流の機会になる他、子どもたちの福祉意識を育てることにもつながればと考えています。



雑巾を縫って小中学校へ寄付



支援学校ベニバナ染め見学



切手整理



雑巾贈呈式

サロン名

さろん おしゃべり

熊谷市

キャッチ
フレーズ

ご近所の人たちとお茶を飲みながらおしゃべりする場

サロンの概要

サロンの種類	世代間
発 足 年 月	平成20年6月
開 催 頻 度	月1回 第2水曜日
開 催 時 間	10時～15時
会 場	曙・万平町自治会館
参 加 費	参加費100円 おまかせランチ代200円
問 合 せ	熊谷市社会福祉協議会 TEL:048-521-2735

●中心になっている人（実施主体）

地元ボランティア

●関わっている人（協力者）

地区社協会長、自治会長、自治会役員、民生委員



❖活動のきっかけ

コープのふれあい喫茶に関わっていました。楽しいので地区の自治会長に「自治会館を使って、地域の人を対象にお茶のみ場所を作るといいですね」と話したところ、自治会長からは「やればいいよ」との返事があったので、簡単に作ってしまいました。

平成21年に地区社協会長から「地区社協の後援ではなく、地区社協と共催にしよう」との提案があり、地区社協から補助金をいただくようになりました。

❖活動内容と活動のポイント

地域で生活している高齢者から子育て中の親、子どもを対象に、気軽に立ち寄り、食事やお茶しながらおしゃべりをするサロンです。子育て中の親子と高齢者の交流もできて、とてもよい雰囲気です。

サロンでのプログラムは特に決めず、自由に、気軽におしゃべりをし、おまかせランチはボランティアの手作りでとてもおいしくバラエティーに富んだメニューになっています。

また午前10時から午後3時ごろまで開催しており、ほっこりした雰囲気のサロンです。

❖活動の効果

高齢者の参加者が少なく、育児サロンの親子に声をかけ、参加していただくようになり、今では大変喜ばれています。サロンの中で世代間の交流が自然とできることが良いところです。

このサロンも6年目に入り、少しずつ認知され、新人スタッフ(ボランティア)が3名増えました。

自治会長、自治会役員、民生委員、地区社協会長も積極的にかかわり、開催時に自治会の打ち合わせもできます。

市内で実施しているサロンの中でも、世代間交流型サロンは珍しく、新たにサロンを企画している地区の方々も見学に訪れます。

❖課題と展望

自治会館内が座敷(カーペット)なので、高齢者には椅子席が望ましいと思います。親子は子どもを寝かせられたり、子どもも走り回れたりするので喜ばれています。

ボランティアが調理等に多くの時間を割いてしまうため、話相手(接待)ができる時間がつくれば、と思います。また、参加者が喜んでくれるイベントができるとよいと思っています。



サロン名

上白久町会ふれあいサロン

秩父市

キャッチ
フレーズ

「おもてなし」で地域のお年寄りを元気にしたい

サロンの概要

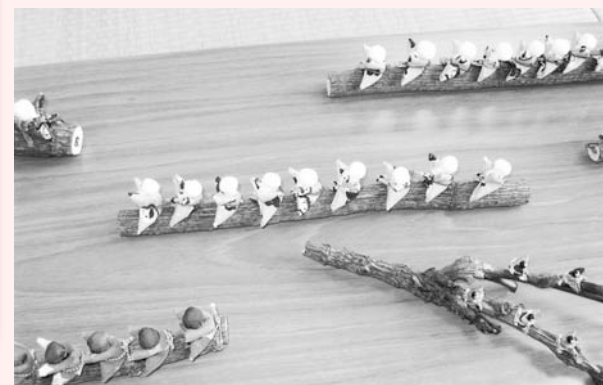
サロンの種類	世代間
発足年月	平成23年5月
開催頻度	月1回
開催時間	10時頃～15時頃
会場	上白久支部長宅 他
参加費	200円～300円
問合せ	秩父市社会福祉協議会 TEL:0494-22-1514

●中心になっている人（実施主体）

秩父市社協上白久支部長

●関わっている人（協力者）

民生委員・赤十字奉仕団・在宅福祉員・町会役員・地元ボランティア



❖活動のきっかけ

地域において「地域のお年寄りを元気にしたい」という気持ちから始まったのがきっかけです。そこで、何をすれば良いのかを考えたところ、「みんなが集まる機会が少ないから集まれる場があった方がよい」との結論に至りました。

また、同じ時期にその地域に住む80代のお年寄りが「やる事がない」と嘆いていたため、話を聞いたところそのお年寄りは、「かご作り」ができることが判りましたので、地元の有志数名でお年寄りの家に行きかご作りを教えてもらいました。

その後、かご作りを習った有志が同地域でかご作りの講習会を開いたところ30名くらいの方が集まり大盛況のうちに講習会を終わることができました。

その時、参加者の中から「次は、いつ開催するのか？」との声や「参加して元気が出てきた」と言う方がいたため、継続して開催することとなりました。

❖活動内容と活動のポイント

物づくりをみんなでいながらお茶を飲んで集まることでボケ防止と楽しめる場づくり、そして一人暮らしの方の話し相手ができるような活動を心がけています。物づくりに関しては、かご作りから始まり、ペン立て、飾り傘、飾り雛、お猿の人形などの手芸品や赤飯、まんじゅう、いなりずし、おはぎやけんちゃん汁などの食べ物も作り、中でも「つとっこ」という栃の葉でもち米と小豆を包み蒸した地元の郷土料理をみんなで作り、楽しんでいます。

このような物づくりの講師が参加者の「お年寄り」であることもポイントとなっています。お年寄りから手芸品などの作り方を学ぶことで、その方に生きがいを持ってもらえればと思っています。

お年寄りから手芸品の作り方などを事前に習ってからサロンを開催していますが、その前に手芸品等を使用する道具についてもお年寄りが使いやすい物を用意するようにしています。

例えば、お猿の人形作りの際には、針と糸を使用しますが、お年寄りでも作業しやすいよう予めペットボトルの蓋を活用した針山を用意し、針も糸を通しやすい構造の針を準備してからサロンを開催しています。

たくさん作った手芸品や郷土料理を「ひだまり広場」と称して地元の駅の待合室で月1回「おもてなし」の心を持って販売し、鉄道ファンや観光客とのふれあいを積極的に図っています。その収益は、被災地の義援金として寄付する活動も行っています。

また、中には参加を拒む方もいましたが、「一度でいいから来て」と何度も声掛けをし、参加を促しています。参加を拒んでいた方は、今は「面白い」と言って次の開催を楽しみにしてくれるようになりました。

❖活動の効果

元々まとまりのある地域ということもありますが、参加を拒んでいた方も何度も声掛けをすることで参加するようになり、楽しみの一つとなっています。

また、手芸品づくりでは、自宅でもできる内容であるため、お年寄りが家に帰ってからでも作っています。中には、自身で作ったものを「ひだまり広場」の商品として提供してくれる方もいます。

「ひだまり広場」を開催している駅は、SLや古い列車が展示されているため、鉄道ファンの方も多く訪れています。中には、戦中、秩父に疎開してきた方もおり、懐かしく地域住民とふれあっていく方もいます。その方たちに「おもてなし」の心で郷土料理をふるまい、ふれあうことで地域の活性化も図っています。この広場は、以前テレビで開催に至るまでの一部始終が放映されたこともあります。

サロンで習った手芸品の作り方を口コミで他の地域に住んでいる友達に教えたりして、手芸品づくりを楽しんでいる方もいるようです。

❖課題と展望

課題としては、サロンで行うネタが無くなりつつあり、「次は何をしたら良いか」と言う点で悩んでいます。

展望としては、「おもてなし」の気持ちをしっかりと持ってサロン事業を継続しつつ、義援金の寄付活動も行っていきたいと考えています。

サロン名

サロン「憩」

飯能市

キャッチ
フレーズ

気軽に！ 楽しく！ どなたでも

サロンの概要

サロンの種類	世代間
発 足 年 月	平成25年 3 月
開 催 頻 度	火曜日 月 4 回
開 催 時 間	13時～15時
会 場	地区行政センター内
参 加 費	100円
問 合 せ	飯能市社会福祉協議会 TEL:042-973-0022

●中心になっている人（実施主体）

一般住民

●関わっている人（協力者）

一般住民



❖活動のきっかけ

現在の会の中心の方が、もともとは自宅を開放してサロンを実施していました。どなたでも大歓迎、どなたでもお気軽にどうぞという気持ちで実施していましたが、個人宅の解放だと、住民にとっては非常に敷居が高く、ほとんど参加者がいなかったという状況が続きました。そんな中、飯能市社協に相談し、何度か話し合いを行い、改善策を検討しました。その結果、まずは会場を変えて、もっと気楽に皆さんが足を運べるようにすることが大切だろうということになり、最寄の地区行政センターに相談し、一室を会場として貸していただけることとなり、現在の活動が始まりました。



ボランティアによるマジック



❖活動内容と活動のポイント

参加対象の制限はなく、どなたでも参加可能ということで実施しています。

特にイベント的な内容を行うサロンではなく、気ままに集まり、気楽に過ごせる場として開設しましたが、1年以上が経過した現在では、時にはフラダンス等のサークルに参加してもらうなど、この期間に育まれた人脈等を活かし、変化のある取組も始まっています。利用者から寄贈されたエレクトーンを利用した合唱や多世代で行うトランプ等も非常に好評です。

できる限り、参加者とボランティアの垣根をなくし、お互いに支え合えるかたちを目指しています。

周知については、開設当初は近隣地区行政センターにチラシを設置しましたが、基本的には口コミでの拡がりを重視し、自然に少しずつ広がっていけばよいと考えています。

2歳から90歳までの幅広い年齢層が集い、世代間交流が行なわれています。

❖活動の効果

開設当初は参加者2～3人ということもありましたが、最近では30人～40人という多くの参加があり、大変な賑わいをみせています。それも90歳代の高齢者から2歳の子供を連れた親子まで幅広い年代層での参加があり、世代間交流のできるサロンとして理想的な状況といえます。参加者のなかには開催を心待ちにしている方も多いです。

自然な拡がりから徐々に参加者が増えてきたこともあり、しっかりと地域に根付いてきています。小学生が気楽に立ち寄るなど地域住民への認知度も高まっています。

また、時々、地域包括支援センターの職員が訪れるなど専門職とのつながりもあり、参加者にとっては相談等も可能になっています。

❖課題と展望

参加人数が増えてきているため、時には会場が狭すぎる状況になることもあります。

将来的には、会場の見直しなども必要になってきます。

今後は、気楽に集える交流の場というかたちは維持しつつも、その中で、お互いに悩みを打ち明けられるような場にしていきたいです。このサロンに参加することで生活の悩み等についても、軽減できるような場になればよいと思います。

サロン名

西五十子・ふれあいいきいきサロン

本 庄 市

キャッチ
フレーズ

挨拶いっぱい・笑顔いっぱい・元気いっぱい

サロンの概要

サロンの種類	高齢者・世代間
発 足 年 月	平成23年 4 月
開 催 頻 度	週 1 回
開 催 時 間	9 時 30 分～12 時
会 場	西五十子自治会館
参 加 費	なし
問 合 せ	本庄市社会福祉協議会 TEL:0495-24-2755

●中心になっている人（実施主体）

民生委員・児童委員

●関わっている人（協力者）

自治会・地域ボランティア



体操



車椅子講習会

❖活動のきっかけ

民生委員として担当地域の見守り活動で一人暮らしの高齢者宅を訪問した時に「隣近所で話し相手がいないため一日が大変苦痛である。多くの人と茶話会をしてみたい」と話しかけてきました。それから、一方的に30分以上にわたって話を続けていました。「今日は、民生委員さんに話を聞いてもらい気分がすっきりした。ありがとうございます」と頭を下げられ、「皆さんと茶話会できるようにしますね」と話し、家を後にしました。その後も高齢者宅を訪問し、話を聞く中で、同じような言葉が多く聞かれ、高齢者の日常生活の様子が見えてきました。

そこで、自治会長、老人会長と話し合いを重ね、自治会の会議で社会福祉協議会のサロン事業について説明し地域住民の理解をいただき、サロン活動を開始しました。



シナプソロジー



輪投げ

❖活動内容と活動のポイント

核家族化や超高齢社会の今日、高齢者の一人暮らし世帯や高齢者のみの世帯が増えています。このような方々が住み慣れた地域で安心して生活していくためには、地域の方々のあたたかい思いやりが必要になります。「西五十子ふれあいいきいきサロン」は子どもからお年寄りまで、地域住民と参加者が一緒になり、ふれあい活動を通じて、心豊かな充実した人生を送るための楽しい仲間づくりをする憩いの場です。地域住民との結びつきを深め、地域の人達で地域の見守りをすることを目指すものです。

活動は、民生委員・児童委員、自治会役員、老人会、地域のボランティアが主体となった組織で継続的な活動が行えるようにしています。日時は、毎週金曜日午前9時30分から正午まで、活動は、①仲間との交流(茶話・カラオケ・昼食会)②健康づくり活動(口の体操・ゲーム・筋力アップトレーニング・健康チェック・講話)③世代間交流(子ども会への参加協力)など参加者のニーズに沿ったものとし、サロン参加者とボランティア相互の話し合いで、活動計画を作成しています。また、他の団体(介護施設・介護ボランティア)や行政等(社会福祉協議会や介護いきがい課、警察など)との連携を図り活動内容のマンネリ化の防止に努めています。

❖活 動 の 効 果

- ①週1回の活動を継続的に行うなかで屋外に出る習慣が身についてきました。
- ②挨拶いっぱいの活動を継続することで、地域の人たちと挨拶をかわすことが習慣化しつつあります。
- ③茶話会を通して会話が增え、自分から話しかける行動が多く見られるようになりました。
- ④介護いきがい課や介護施設・介護ボランティアなどの協力により介護予防や認知症予防につながっています。
- ⑤会での活動で親しくなり、活動終了後、一緒に食事に行く人も多く見られるようになりました。
- ⑥会の活動について、毎月「ミニ通信」を発行し地域への啓発を進めるなかで活動内容の周知に努めました。
- ⑦活動内容が他の地域の人に知られるようになり、見学や問い合わせの連絡が増え、地域に広がりが見られるようになりました。
- ⑧活動を見学した人のなかで、自ら活動を始めた人も出てきました。
- ⑨活動への協力者(スタッフ)がでてきました。

❖課 題 と 展 望

- ①開始から3年間で10名の新しい人の参加がみられましたが参加者の固定化が見られます。
- ②サロンに興味を持たない人への対応や取り組みの工夫が必要です。
- ③参加したいが、歩いて自治会館まで行けない人への対策が必要です。
- ④参加者一人一人が充実した内容になるための活動内容(居場所のある内容)への見直しを図ります。

子どもからお年寄りまで、地域住民と参加者が一緒になり、ふれあい活動を通じて、心豊かな充実した人生を送るための楽しい仲間づくりをする憩いの場を確保し、地域住民との結びつきを深め地域の人達で地域の見守りをすることを目指してまいります。